

◆事務所休館のお知らせ◆

9月4日(木)午後、書記局会議のため事務所を休館します。
ご了承ください。

江東支部



墨田、江東、江戸川合同編集

東京土建一般労働組合

江東ブロック会議

江東区北砂1-11-4

TEL [3640] 2411

発行者 実川英治

定価 30円

新聞代は組合費に含まれています

核兵器のない平和で公正な世界を

原水爆禁止2025世界大会参加報告



千羽鶴を献納する花岡副委員長

核兵器を許してはいけない

大会参加で強く感じた

被爆80年「被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を—人類と地球の未来のために」をテーマに原水爆禁止2025年世界大会・国際会議が8月4日～6日、広島市内で開催され、フランスや英国、韓国など15カ国から政府や平和団体、被爆者、核実験被害者の代表が集まりました。核兵器による被害を明らかにし、「核抑止力」論を克服するとともに、自国の核政策を変えるために核保有国、依存国の市民社会の闘いや核兵器のない世界の実現に向けた国際共同行動について討論、交流しました。大会は1日目に開会総会、2日目は多彩なフォーラム・分科会、3日目はヒロシマデー集会が開催され、連日約4000人が参加、江東支部から花岡副委員長を団長に、加納常任を江東区代表団の一員として派遣しました。参加された方からの報告および感想を掲載いたします。

また、代表団を派遣するカンパをいただいた、組合員皆様の「理解と協力」にお礼申し上げます。カンパは参加費用、東京大空襲戦災資料センター維持募金として活用します。

【支部副委員長／深?・花岡康雄】

私は8月4～6日に広島で開かれた「被爆80年

兵器の廃絶と平和な未来を願う声を共有できたこと、改めて核兵器を許してはいけないと言う事を強く感じました。

1日目の広島県立総合体育館(グリーンアリーナ)での開会総会では、被爆者の体験とメッセージの継承と普及について語られました。あの日の広島で家族や仲間を二瞬で奪われた悲しみ、そしてその後も続く後遺症や「非核平和の日本とアジア

世界各国の方々と共に核

被爆したと言えなかった

被爆体験談を聞いて

【支部常任執行委員／事業所・加納美穂子】

被爆80年
原水爆禁止世界大会広島大会へ参加して

核兵器の廃絶と平和な世界の実現をめざし原水爆禁止世界大会が8月3日～9日、広島と長崎で開催されました。私は、8月4日～6日の3日間の被爆80周年広島大会へ参加しました。貴重な経



原爆ドームと江東原水協の皆さん

きた事、家族がバラバラになっ
てしまったこ
と、家族を守
てあげられな
った後悔の話
等、皆さん被
爆したことを昔
言えなかった勇
気が無かった等
を皆さんおしゃ
っていて最近に
なつて未来のこ
とを考えやうと
話せるようにな
った元氣なうち
に話さなきゃと
思つて話し始め
た。また被爆認定は爆
心地から2km以内と定
められているがもっとも
つと広範囲で被爆者は出
ているが80年たつた今で
も認められていなくて、
認定されるように研究運
動している方が居て、被
爆者は日本人ばかりでは
なくて他国の方も居る。
今回は韓国の方からの被
爆の話で、当時は韓国人
とは言えなくて日本人と
偽つて住居していたため
生活に大変苦労した話な
ど聞きました。とても衝
撃的で辛い話ばかりでし
た。

初日の午後は開会総会
が広島市・グリーンアリ
ーナで「被爆体験の継承
と未来—被爆80年広島
つどい」が約2200人
参加し2000人がWeb
視聴。
この日は、3名の被爆
体験談を聞きました。広
島に原子爆弾が投下さ
れ、その熱線と爆風及び
放射線は、数か月以内に
多くの人々を死亡に至ら
ずただただ耐えて生きて

ミジョンさん、米国から
はアン・ライトさんの3
人が中心になり討論。平
和とは何か、平和運動を
どう進めていくか等を賛
疑応答からパネリスト個
人の意見を交えての話し
合いをしました。
特に印象に残っている
のは米国からの方の話で
す。まずは米国の原爆投
下の謝罪から始まりまし
た。そして平和とは自分
たちの暮らしが大事で自
分たちが安全にこの国で
暮らしていけると言うこ
とが大切。武力衝突は絶
対に避けなければならな
い。戦争反対は政治に訴
えていかなければならな
い。まずは平和と対話が
必要なのだと。しかし、
各国対立するには歴史的
な流れもあり理由もあ
る。問題を歴史から見
ての判断も必要。まずは、
敵国と思つている国へ行
き直接話をしてほしい。
と話されていました。
三日目は世界大会—広
島へヒロシマデー集会
2800人が参加し、7
50人がWeb視聴。
この世界大会には、国
連の中満泉上級代表をは
じめ、禁止条約の先頭に
立つてきた国々の大使
や、各国の国会議員らも
参加。被爆者も高齢とな
る中、貴重な体験を語つ
てくださいました。

2面へ続きます

四代
鶴屋南北

第七回

「四谷怪談粗筋」

【深7・中尾正文】

娼になってしまう。

怪談の肝は、今までも何回か触れてきました。が、さりとて、全体のあらすじは省いてしまったので、今回は「どんな話？」を整理してみます。

主人公は、民谷伊右衛門 主人奥田正三郎であつた。散々な修羅場を姉妹の「お岩」さん。伊右衛門が途方に暮れているところに、伊右衛門と直助の「仇門に横領の過去があると

して、お岩さんの父の四谷左門（現在も四谷に左門町あり）が離縁させてしまふ。さりとてお岩の

妹「お袖」の許嫁の与茂 復縁したものゝ産後の
肥立ちも悪く病氣がちの
七は行方不明。

四谷の主である塩谷家（赤穂浅野家）の刃傷事件で塩谷家は断絶。左門は困窮して、お岩お袖の美人姉妹を、夜鷹（街娼）と按摩宅悦の地獄宿の私喜兵衛は、お岩への見舞

いとして毒藥を渡す。この藥が、お岩の面相を醜くし、その上苦しんで悶死してしまふ。民谷家の秘伝の藥を盗んで伊右衛門に殺された小仏小平の二人の死骸を一枚の戸板の表裏に貼り付け神田川に流す。隅田川を渡り、小名木川をさかのぼり流れ着いたのが北砂の「隠亡堀(オンボウホリ)」。

お岩と小平の亡霊に錯乱した伊右衛門は、お梅と喜兵衛を斬殺する。

は、嘘が露見するを恐れて、もうこれまでとお袖の首をはね、自刃する。

お岩の執念により錯乱状態の伊右衛門は、一連の恨みを晴らさんと与茂七に斬殺され、最期となる。

徳川時代の最終期、最も華やかな文化文政時代、江戸の下層社会にうごめく人間模様がたつぷり描かれている。歌舞伎「戸板返し」お岩の亡霊が出てくる「提灯拔け」

一面報告続き

街に出て私個人も色々な話を聞きました

自由時間にタクシーや市電でも被爆2世ですという方々からも話を聞いたたり白神社の宮司と話したりしました。皆さんが最初に言う言葉は、「どこからですか?」「遠いところから広島のため

隣家伊藤家のお弓は、親と娘お梅の仇を討つべく、伊右衛門を探すが、逆に隠亡堀に伊右衛門に蹴落とされてしまう。お袖は義姉のお岩の死を知り、仇討の約束を再確認して直助に体を許す。ところが諦めていた与茂七が現れ、後悔して死を覚悟するも、与茂七は死んだとして近づいた直助

「仏壇返し」など盛り沢山である。そして、醜くなつた事を知つたお岩が、鏡の前で髪をすく髪すきの場」。陥れられた女の悲しみと恨み模様が切実と表現されていきます。

四谷怪談は、「忠臣蔵」のパロディ。民谷伊右衛門は殿様の刃傷事件で浪人、お岩の家も浪人、不

にありがとう」です。広島の中でも原爆のことを話す機会が減っているそうで、小中高の平和の授業で触れるくらいで興味も持ってくれる人も少なくなってきたというそうです。しかし8月に行われる原水爆禁止世界大会が始まると思えば、世界中から人が集まり聞かせることにより勇気を持

一面報告続き

街に出て私個人も色々な話を聞きました

自由時報

江東区の戦跡巡り

本部平和共同取材

【4砂・佐原晶子】

本部教育宣伝部が開催した「平和共同取材」東陽町から江東支部までの戦時中の史跡巡りに参加しました。

前日まで涼しかったで

仇討忠義話にしてきた幕府におもね、浅野家は塩谷家で、曾我兄弟時代を模して、上演しなければならなかった権力の言論（「歌舞伎名作力」）

って少しずつあの悲しい出来事の話が出来るようになってきたとも言っていました。

この3日間で
思ったこと

平和は祈っているだけ
ではなく、私たちがつく

球上で起きている紛争、戦争をやめさせなければなりません。そのためには、声を出してどんなに小さな声でも平和を願って話し合い語り合いたいです。私たちの友人と平和はどこにでも存在しているのですから。



原爆の子の像の前で

はだしのゲン上映会
平和への願いをつなぐ

喜楽会は8月8日
（金）、支部会館4階に
て平和学習上映会に24人
が参加し、「はだしのゲ
ン」を鑑賞しました。

はだしのゲンは、中沢
啓治さんによる日本の漫
画で、中沢自身の原爆に
よる被爆体験を基にした
自伝的な内容です。戦中

なげます。
9月28日にはバスレク
を開催します。喜楽会へ
のご参加お待ちしております。
ます。

戦後の激動の時代を必死に生き抜こうとする主人公・中岡ゲンの姿が描かれています。

喜楽会は平和を願い活動します

参加者からは「胸が締め付けられる思いで見入ってしまった」「戦中の戦争賛美の偏った教育のあり方に考えさせられた。戦争反対!」「戦争に反対した子どもたちの生き方に感動した」「映画を見て、幼いころのことを思い出しました。イモばかり食べて育ちました。改めて戦争の悲惨さを感じました」など、平和への願いを強く持った、という感想が多数ありました。この平和への願いを、今後の活動につなげます。

戦争で亡くなった
牛馬の慰霊碑

すが、7月13日は夏日。ターの副館長が丁寧に分
かりやすくお話をしてい

として参加者に冷たい飲み物が配られて水分補給しました。案内してくれた方は、元教師の工藤さん、いまは震災資料センターに、

秋の拡大で魅力ある組合作り！

次月拡大特集です

にある六地藏へそれから馬頭慰靈碑まで歩きました。馬頭慰靈碑は戦争で馬や牛が徴収され国のために亡くなった魂を慰霊する場所です。ちなみに隣はトラック協会です。

江東支部で休憩し午後には戦災資料館での見学、そこでは戦争体験者の二瓶治代さんのお話を聞き

の二瓶さんの切実なお話を聞き戦争はしてはいけないと矢うものが甚大と言うのに言葉を失いました。命だけではない家族も失う、住んでいた町も、家も。戦後80年ですがこの戦後を体験した方の思いを語り継ぐことも大切だと言うことを思い知らされました。

ました。当時亀戸に在住